



# 飼育日誌



1/5	レッサーパンダ	ゆり♀ 除雪の音をかなり怖がっている。
1/6	ツキノワグマ	稔♂ 冬ごもり中。室内で物音に反応し頭を上げてあくびをしていた。
1/7	ニホンイヌワシ	風斗♂ × 西目♀ 交尾行動確認。
1/9	タンチョウ	14繁殖個体を親と離す。♂10.0kg ♀9.7kg。
1/10	ビーバー	「春の七草パック」を来園者の前で解説付き給餌。
1/12	チンパンジー	のり子♀ 甘酒の缶を見たからか素直に動く。
1/15	キリン	カンタ♂ 比較的強めの追尾行動確認。
1/21	シンリンオオカミ	フレーメンも見られたがペニスの露出なし。
1/21	チンパンジー	交尾行動あり。
1/24	フタコブラクダ	全頭にカリン酒とおにぎりを給餌。
2/2	ホンドリス	♀ 2ヶ月ぶりに園内散歩。
2/7	ツキノワグマ	♂ 習丸が大きく垂れ下がってきている。
2/9	タンチョウ	♀群 給餌開始。
2/19	タンチョウ	ペア 求愛ダンスのようなものを確認。
2/21	ツキノワグマ	シゲタ♂ 元気はあるが食欲廃絶。
2/21	ラクダ	稔♂ 屋外展示開始。
2/24	ノドジロオマキザル	♀ 散歩中、ボニーと遭遇し足取り重くなる。
2/28	チンパンジー	ナナエ♀ 捕獲して尾の褥瘡を治療。
3/1	ツキノワグマ	のり子♀ ガラス越しに男性客に近づくが、
3/1	タンチョウ	タイプではないのか、すぐに立ち去る。
3/3	アフリカゾウ	母娘を外へ出す。
3/6	タンチョウ	シゲタ♂ 生き餌(フナ・ドジョウなど)で採食確認。
3/9	ケヅメリクガメ	だいすけ♂ 工事期間中足のケアができず、
3/14	ニホンコウノトリ	足の裏のひび割れがひどくなっている。
3/17	ワオキツネザル	お市♀ 孵化303日。頭部が赤くなってきた。
3/19	マーコール	黄5 陰茎脱および尿結石の治療。
3/20	ミニブタ	コウノトリ舍冬囲い撤去に伴い、ヒデタダと
3/20	レッサーパンダ	タンチョウペアの体重測定。
3/20	タンチョウ	仔2頭のうち1頭が展示場で死んでいた。
3/21	ワピチ	首の後側に咬まれた傷を認める。
3/24	アカコンゴウインコ	成♂弟 麻醉下で削蹄。
4/2	モモイロペリカン等	とん平♂ てんかん発作あり。
4/2	トナカイ	ケンシン♂ 検疫終了し展示場へ移動。
4/2	タンチョウ	ペア 交尾確認。
4/6	ニホンイヌワシ	♂ 両方の角が落ちる。
4/11	エリマキキツネザル	メレブ♀ 上嘴の先端5mm程折れる。
		BW測定および放鳥。
		サクラ♀ 右落角。
		産卵。
		第1ペア卵(2個)を八木山動物園へ搬出。
		巣箱にワラを入れる。

4/13	ピューマ	ピュー子♀ 出産に備え、非展示。
4/17	インコ舍	オオバタン・キバタン同居。
4/23	アミメキリン	♂ 体温測定。
4/25	チンパンジー	コタロウ♂ 体調不良のため麻酔下で診療。
4/27	インドガン	右足脱臼のため入院。
5/3	アムールトラ	ヒロシ♂ 室内に血尿。
5/4	ボリビアリスザル	すず♀ 腹部に膨らみ。
5/8	レッサーパンダ	全頭にタケノコ給餌。
5/10	エリマキキツネザル	子どもの声が聞こえる。
5/11	アフリカゾウ	交尾、挿入2回、射精1回確認。♂13時頃、四肢が震え、倒れそうな状態あり。
5/13	チンパンジー	ココ♀ 朝の地震で少し不安な顔をしていた。
5/15	ライオン	ラガー♂ 麻酔下で爪切り。ワクチン接種。
5/18	ヨーロッパフランゴ	ペア2組の交尾確認。
5/19	シロフクロウ	(展示場)1卵目有精卵と判明。3卵目を確認。
5/20	フンボルトペンギン	ヒナ41日齢 顔周り、翼の先端換羽始まる。
5/22	アムールトラ	アシリ♀ 発情継続。前日給餌分そのまま残る。
5/26	ノドジロオマキザル	夕方の収容時間がかかる。部屋の奥で横になる。
5/28	ミーアキャット	陽太♂ 左下腹部が横に突出。経過観察。
5/28	チリーフラミング	(ウエルカム)妊娠個体が出産した様子だが、子どもの確認できず。
5/29	ヨーロッパフランゴ	Bペア(♂紺×♀青)、午後交尾確認。
5/30	カナダヤマアラシ	ペア 産卵(今季初・昨年より3日早い)
5/31	ニホンイヌワシ	暑さでバテる。ミストで復活。
6/2	アカコンゴウインコ	(展示場)ヒナ巣立ち、74日齢。
6/2	アミメキリン	メレブ♀ 午前中「んだ」を良く喋っていた。
6/2	レッサーパンダ	2頭削蹄。
6/5	ラマ	ナナ♀ 初めての採血練習。ユウタ♂、ゆり♀も実施。
6/7	ボアコンストリクター	アンズ♀ パレード練習参加。
6/8	カリフォルニアアシカ	脱皮完了。
6/16	ツキノワグマ	採血成功。
6/17	ワオキツネザル	ルビー ルイに対して威嚇行為あり、ルイに
6/22	アフリカゾウ	収容に時間かかる。
6/25	アミメキリン	仔ケガのため治療後、親のもとに返す。親に
7/2	アフリカゾウ	しっかりとしがみついていた。
7/9	コモンマーモセット	有料餌やり体験「はなスポット」再開。
7/10	ラマ	2頭の血圧測定実施(初)。
7/13	チンパンジー	♀採血。血検の結果、白血球数が通常の
7/20	アフリカゾウ	倍になっていた。要観察。
7/20	レッサーパンダ	ススキ♂・つかさ♂とタマリン レオ♂午後のみ同居。トラブルなし。

## お客様の声

1/31 移動動物園のお客さま。「フクロウを初めて見ました!なかなか動物園に行けないので、こんな間近で見られてうれしい。」

3/29 ひょうたん橋のゼニタナゴ水槽を見つけて、「きれい」といって水槽に駆け寄ってくるお客様がいました。

4/23 オーストラリア在住のペルー出身だという老夫婦が来ており、ラマ・アルパカについて与えている餌や家畜としての利用方法について教えていただきました。ほぼお互いにボディーランゲージで、英会話能力の必要性を感じました。大森山動物園は2回目とのことで、大変に気に入っていただけたようでした。海外のかたでもさらに楽しんでいただけるよう、園内の看板にもっと英語表記が必要と感じました。

5/6 イベントで、整理券配布場所と実施場所が異なるため分かりづらいとのご意見がありました。

7/12 先日アシカのトレーニングを夕方見たお客様が数日後に来園し、今朝のトレーニング時に「また、来ちゃった」とお孫さんと一緒にトレーニングを見て行ってくれました。

## かたばた通信

本コミュニケーション誌は1990年の創刊から25年が経過、今号で90号の歴史を重ねてきました。そこには多くの思いが詰まっています。

また、今春3月21日には1973年の開園以来入園者数が1000万人を超えた。人口減少が続いている地方、秋田にあって小さな数字とは思いません。秋田市約30万人の市民が一人30回程度、秋田県約100万人の県民が一人10回程度来園していることになります。どちらの方はさまざまですが、秋田の大森山動物園は多くの市民が自分の庭のように親しみを感じ、また、多くの応援や地元企業様の支援を受けながら存在してきた市民動物園であることを、改めて実感させられる数字とも言えます。歴史を重ねてきた意味がそこにあるように思います。(園長 小松守)